

ひまわり学級生活単元学習指導案

1 単元名 やさいをそだてよう

2 単元設定の理由

(1) 児童について

省略

(2) 単元について

昨年度までの活動としては、野菜作りを通して土や草、虫などの自然とふれあうこと、集中して働くこと、販売や買い物の活動におけるあいさつや働きかけの言葉がけ、お金の計算、調理する際の安全の知識・技術の習得、公共交通機関の利用の仕方等さまざまなねらいのもとに行ってきた。また、単元のゴールとしては、畑を貸して下さった地域の方を感謝の会にお招きし、感謝の気持ちを伝えることを設定してきた。

昨年度の成果としては、買い物をする際に、決められた金額の範囲で品物を選んだり、できるだけ安い品物を選ぶために値段を比較したりすることなどを練習のうえ、スーパーマーケットに行き、必要な品物を買うことができた。

今年度も畑での野菜作りを中心として活動してきており、野菜も順調に育ってきている。子どもたちは、野菜を育ててみんなで調理して食べること、販売した収益金でお楽しみ会や畑を貸して下さった方への感謝の会をすること、自分たちと仲良くしてくれた交流学級の友だちに感謝の気持ちとして何かごちそうすること、そのために買い物をするなど希望している。

今年度は1年生を迎え、高学年は上級生として1年生に活動の仕方を教えようと張り切っている。そこで高学年の児童には1年生の手本となるような行動や声掛けをしてもらいながら共に活動していくような展開をしていきたいと考える。その中で、相手の話を聞くこと、自分の思いを伝えること等のコミュニケーション能力をつけることや教え合いなどができる場を設定していきたい。

(3) 指導について

畑で野菜を育てることを通し、一定の時間作業を続けることを大切にしていきたい。また、広大な畑で実った野菜をどのように活用していくかを考える中で、児童の経験などからやりたいことやできそうなことを話し合い、自分たちのやりたいことを自分たちの力で実践することができたという実感がもてるような活動にしていきたい。

そのために、今までの活動や経験を生かしながら、育て方や調理の仕方、市販の野菜の値段等の調べ活動も取り入れ、各教科との関わり、お金の読み方や高い安いなどの金銭感覚や日常生活との関わりにも興味を持たせていきたい。そして、自分たちの活動を見守り、時に励ましてくれる交流学級の友だちや、活動を理解し畑の野菜を購入してくれた教職員、畑を貸して下さった地域の方へ感謝の気持ちを表すことを大切にしながら活動を進めていきたい。

なお、活動を進めるにあたって、以下の点を重点とする。

- ① <活動展開の工夫>・・・小単元を組み合わせたり、今までの学習経験を生かした活動を行ったりすることにより、精神的な負担を軽減し、活動の手順や方法をより確実に行うことができるようにする。
- ② <個に応じた役割>・・・児童一人一人の能力や特性を考慮して、活動の内容や役割を決めたり、ペアやグループを構成したりする。
- ③ <がんばりの自覚>・・・単元に取り組むにあたって、どのような活動にしていきたいか話し合いを重ね、活動の流れやめあてを明確にし、一人一人ができたことが分かる振り返りの仕方を工夫する。
- ④ <教材・教具の工夫>・・・活動の内容や仕方が分かるよう、言葉とともに手本を示したり、具体的な写真や絵、活動し易い教具を用意したりする。

3 単元の目標

- (1) 見通しをもって活動を行うことができる。(単元全般)
- (2) 野菜の栽培を通して、生長の順序が分かる。(生活・理科)
- (3) 販売活動に際しての受け応えや感謝の会での係としての発表ができる。(国語・音楽)
- (4) 野菜の収穫を通して、数を数えることやお金の計算ができる。(生活・社会・理科・算数)
- (5) 目的に応じた買い物ができる。(社会・国語・家庭・算数)
- (5) 公共交通機関の利用の仕方が分かり、利用できる。(社会・生活)
- (6) 野菜の栄養や体に及ぼす影響について知ることができる。(家庭・保健)
- (7) 安全と衛生に気をつけて、調理をすることができる。(家庭)

4 指導計画 (太枠内で、小単元を合わせた活動を構成することもある)

小単元	学習活動	1 学期	2 学期	3 学期
活動のめあてを決めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習でどんなことをやりたいか話し合う。 ・今年の活動を思い出す。 	4 月		
野菜のおせわをしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな野菜を育てたいか話し合う。 ・畑づくりをする。 ・野菜の種まきや苗植えをする。 ・水やりや雑草抜きをする。 	5～7 月		
野菜を収穫して販売しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の収穫をする。 ・野菜の販売をするための言い方を練習する。 ・野菜の販売に行く。 ・売り上げの計算をする。 ・畑の後始末をする。 		8～10 月	
お楽しみ会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいものを話し合う。 ・野菜の栄養について知る。 ・調理の仕方や順序を調べる。 ・調理をする。 			
乗り物に乗って買い物に行こう	<ul style="list-style-type: none"> ・バス(電車)の乗り方の練習をする。 ・バス(電車)に乗る。 ・乗り方のマナーやお金の払い方を知る。 ・目的に応じた買い物をする。 			
お礼の会をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな会にするかを話し合う。 ・招待状をつくる。 ・プレゼントをつくる。 ・出し物の練習をする。 ・安全に気をつけて調理する。 		11～12 月	
1 年間でふりかえろう	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間の活動を思い出し、がんばりを認め合う。 			3 月

小単元	時数	学習活動	評価規準 (低)は低学年、(高)は高学年、(全)は全員
お楽しみ会をしよう 全8時間 (+課外2時間)	1	・お楽しみ会の計画を立てる。	・どのようなお楽しみ会にするのかを考えながら話し合いに参加することができる。(意義、内容の具体等) (全)
	課外	・収穫した野菜で作れるおやつ のレシピを探す。	・パソコン等を使い、収穫した野菜を使って作れ そうなおやつ のレシピをさがすことができる。 (高)
	1	・レシピをもとにして、実際に 必要な人数分の材料を計算す る。 ・自分たちで準備できるもの、 購入しなければならないもの を考える。	・自分たちと交流学級の人数分のおやつを作るた めに必要な材料の分量を、レシピをもとに計算す ることができる。(高) ・自分たちで準備できるもの、購入しなければなら ないもの を考える。(全) ・購入するためにいくらお金を準備すれば買えそ うか予想することができる。(高)
	1	・クッキーを作るために必要な 材料を購入する。	・スーパーマーケットに行き、必要な材料を探し、 レジ→支払い→お釣りとレシート→財布にお釣 りを入れる→品物を袋に入れるの一連の活動が できる。(全)
	1	・お楽しみ会のプログラムを決 め、準備をする。	・お楽しみ会のプログラムや役割分担を自分たち で話し合って決めることができる。(全) ・プログラムの準備や自分の役割の練習をすること ができる。(全)
	2	・クッキーをつくる。	・調理器具の使い方が分かり、安全に気をつけて 器具を使うことができる。(高) ・手洗いや、衛生習慣の大切さを認識することが できる。(全) ・自分の役割と活動の内容が分かり、集中して活 動することができる。(全)
	1 本時	・クッキーをプレゼントするた めの準備をする。	・プレゼントする人数に見合うクッキーの枚数を 計算しクッキーをクラス分ずつ分けることがで きる。(高) ・衛生に気をつけながら、クッキーを丁寧に扱い、 決まった枚数ずつ袋詰めをすることができる。 (低) ・袋にシールを貼って封をすることができる。(低) ・プレゼントする際の言葉を考え言うことがで きる。(全)
	課外	・クッキーを交流学級に届ける。	・交流学級の教室に行き、感謝の言葉を添えて、ク ッキーを渡すことができる。(全)
	1	・お楽しみ会をする。	・お楽しみ会の意義を意識しながらプログラムに沿 ってお楽しみ会を楽しむことができる。(全) ・楽しく会食ができる。(全) ・祝う言葉や感想を自分で話すことができる。(全)

5 本時の指導

～クッキーをふくろにつめよう～

(1) 本時の指導にあたって

野菜を育てて、売ったお金でお楽しみ会を行う活動は、1学期も行ってきた。お楽しみ会を開くにあたってはねらいを明確にし、そこに至るまでに各家庭での日常生活の買い物を想起して、野菜や材料の値段調べ、買い物等の活動を行うようにしてきた。

本時は、「お楽しみ会をしよう」の活動を進めるにあたって、多くの野菜が収穫できた喜びを、交流学級の友だちにも感謝の気持ちを込めながら、おすそ分けするという側面をもっている。そのために畑で収穫したジャガイモを活用したクッキーを、1人分ずつ小分けにする活動が中心となる。児童のそれぞれの実態に応じ、正しく3まで数えること、1クラスの人数程度の数字を読むこと、指先でビニールの口を開けること、かけ算を用いて必要なクッキーの枚数を計算することなどが考えられる。クッキーを届ける際には一言言葉を添えるほうがより気持ちが伝わるので、話型を提示していきたい。一人では難しくても誰かと一緒に考えたり声に出したりすることができるのではないかと考え、グループ活動も取り入れる。

ここでは、クッキーを袋詰めする活動を通し、算数や国語の学習とのつながりや共に活動することで、児童なりに友だちから学ぶことができると願っている。

(2) ねらい

- ・力を加減しながらクッキーを丁寧に扱い、袋に詰めたり、封をしたりすることができる。(全)
- ・袋の枚数や、クッキーの枚数を正しく数えることができる。(A夫・B夫・C夫)
- ・クラスの人数分にあたるクッキーの枚数を正しく計算することができる。(D子・E夫)
- ・あと〇枚、あと〇個という意味を理解して、言葉を遣うことができる。(B夫・D子・E夫)

(3) 児童の期待する姿とその手立て(本時の活動に関わって)

省略

(4) 展 開 (本時 7/8)

	学習内容・活動	指導上の留意点および支援	準備等
つ か む 5 分	1 はじめのあいさつをする。 2 学習内容の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正し、元気にあいさつできるよう声をかける。 支援員はA夫を主としてサポートする。 学習の流れが分かるよう、掲示をしておく。 	単元の流れの掲示 学習の流れの掲示
	クッキーをやさしくふくろにつめよう		
	3 自分のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 個々のめあてを紙板書で確認する。 	めあての紙板書
た し か め る 28 分	4 クラス毎に必要な枚数のクッキーを計算し、大箱にうつす。 クッキーを1人分ずつ袋詰めする。	<ul style="list-style-type: none"> 友だちがもらって嬉しいものを渡すために、壊れないように優しく扱うことを確認する。 T2はE夫の支援にあたる。 クラスの数と1人分のクッキーの枚数から、式を導けばいいことを助言する。 1クラス分のクッキーが入る大箱を用意する。 1列が10個になっている40個程度の箱を用意し、クラスの数に見合う数を探しやすいように底に番号を振る。 袋を1枚ずつ小スペースに置くことを助言する。 1袋に3個ずつ入ったクッキーの見本を置き、手順の写真を傍に掲示する。 D子E夫は、A夫とB夫の手伝いをすると作業が進むことを助言する。 	壊れているクッキー 壊れていないクッキー エプロン・マスク 消毒剤 計算用紙 電卓 クッキーの入った箱 1クラス分ずつ入る大箱 区切りの入っている箱 ビニール袋 顔写真シール 袋に詰める手順の写真(各テーブル)
ふ か め る 7 分	5 何と言って友だちに渡すのか、言い方を話し合う。(ペアまたは3人)	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級の友だちに感謝の言葉とともに渡すと、より気持ちが伝わることを確認する。 話し合いで出た言葉をメモできるボードを用意する。 T2はペア、支援員はグループの話し合いを見守る。 	言葉の例示 ホワイトボード
ふ り か え る 5 分	6 相談したことをもとに、発表し合う。 7 めあてのふりかえりをする。 8 次の活動を知る。 9 おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループのよさを取り上げる。 紙板書に視線を向けるよう声をかける。 週明けには、交流学級に届けに行くことを確認する。 姿勢と目線に気をつけて、あいさつできるよう声がけをする。 	